

自然と話そう、人と話そう!

# 安威川ニュース

構想から半世紀以上の年月を経て

**令和6年3月“安威川ダム”完成**

山とまちをつなぐ「ハブ拠点」を目指して

**「ダムパークいばきた」4月に一部オープン!**

「ファンづくり会」から「ダムパークいばきたコミュニティ」の取り組みへ

**安威川ダムファンづくり会10年間の活動**

VOL.10

令和6年(2024年)3月号





# 令和6年3月 “安威川ダム”完成

## 新たな湖面が誕生し、水と緑に囲まれた貴重な空間が広がる

昭和42年(1967年)7月の北摂豪雨災害を契機に計画された安威川ダム。そこから56年の時を経て、令和6年3月、ついに完成しました。大雨の際には治水機能を発揮し、人々が安心できる暮らしを支えています。



## 安威川ダム左岸線、ダム天端道路が完成

安威川ダム左岸線およびダム天端道路（歩行者専用道路）も完成し、ダムの上までアクセスできるようになります。（令和6年3月末開通予定）





# 安威川ダムの特徴

## 都市近郊型のダム

安威川ダムは、全国でも珍しい都市近郊型のダムであり、ダムの上から下流域の市街地を眺めることができます。



※ 試験湛水中の最高水位（サーチャージ水位）到達時の様子



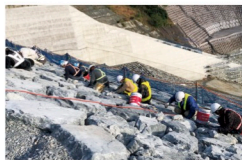
## 周辺と調和した美しい景観の創出

ダム堤体の一番外側を覆うように施工された巨石(ロック材)は、「リップラップ」と呼ばれ、ダムの表面を保護する役割を持っています。

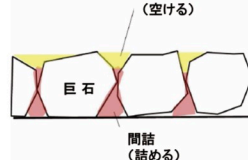
巨石の隙間は小さな石で間詰していますが、安威川ダムでは、間詰の高さを巨石より20cm程度下げることによって陰影を生み出し、重厚感のある特徴的な仕上げを施すことで、恵まれた自然風景やダム湖面と調和した新たな景観を創出しています。



ICT(情報通信技術)重機による精度管理



職人による丁寧な仕上げ



### 洪水調節のしくみ

安威川ダムの洪水調節は、人による操作を行わず、貯水位に応じて洪水吐きから自然に流れていく「自然調節方式」を採用しています。

#### 平常時

下流河川の維持のために必要な水の確保や、フラッシュ放流のための水を必要な分だけ、取水施設から取り込み放流管のルートで放流します。

#### 洪水時

洪水時の流出ルートは「常用洪水吐き」と「非常用洪水吐き」の2系統があります。

#### 常用洪水吐き

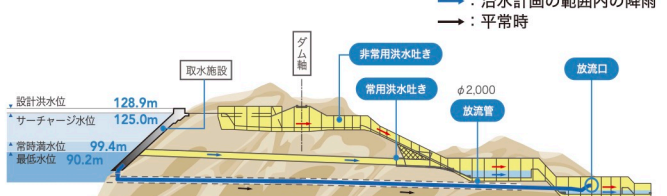
常用洪水吐きはダムの治水計画の範囲内の降雨・出水があった場合、貯水池の水を安全に下流へ流す施設です。

#### 非常用洪水吐き

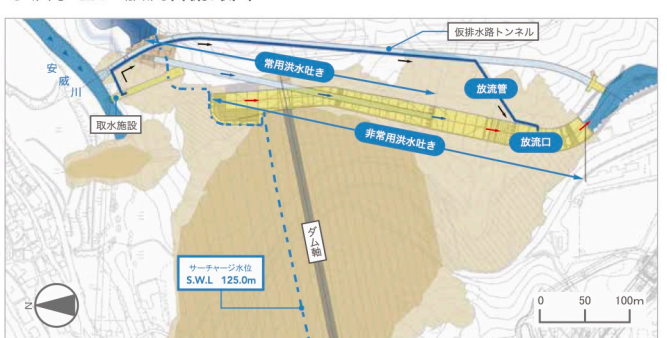
貯水池の水位がダムの高さを越えないように、ダムの治水計画を超える降雨・出水(超過洪水)があった場合でも、貯水池の水を下流に流すことができる施設です。ダムの治水計画を超える雨が降り満水になった場合に、流入した水が非常用洪水吐きを越流して、そのまま下流に流れるもので、流れている水量を人為的に増やすものではありません。



#### ● 洪水吐き・放流管縦断面図



#### ● 洪水吐き・放流管俯瞰図



### フラッシュ放流

ダムは大雨時に下流の洪水被害を軽減する効果がありますが、同時に日頃の雨による川の増水も減らしてしまうため、下流河川環境が変わってしまう懸念があります。

そのため、安威川ダムでは、ダムから一時的に放流量を増やす「フラッシュ放流」を行うことで、人工的に川が増水する状況をつくり、川のよどみの解消や川底の小石、土砂の移動などを起こし、自然の川環境に近づけます。





# 安威川ダム周辺に都市公園「ダムパークいばきた」が 令和6年4月に一部オープン！



※ イメージ

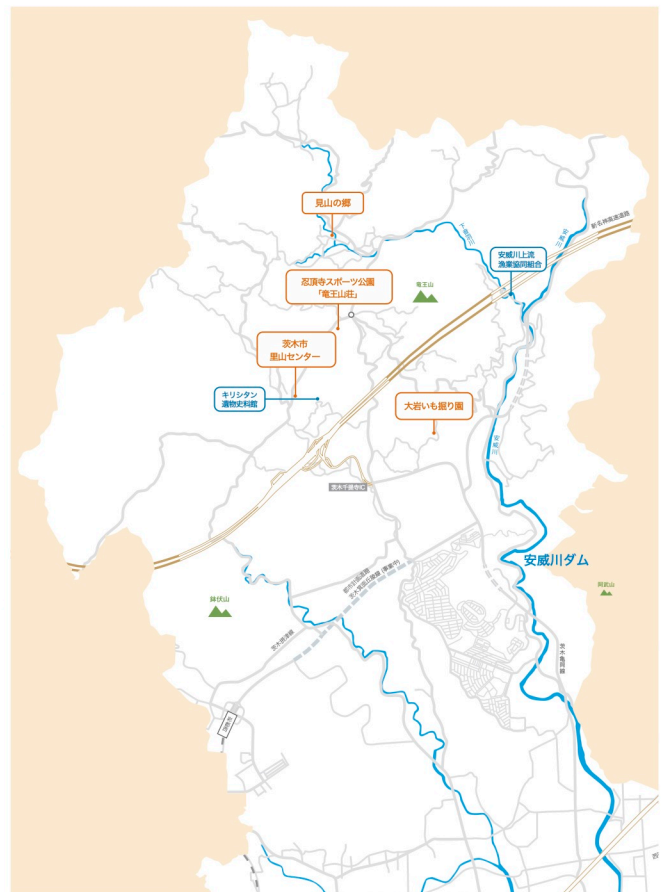
※ 吊り橋やバンジージャンプ等は令和6年12月以降順次オープン予定



## 山とまちをつなぐ 「ハブ拠点」を目指して。

茨木市は、南北に長く、南部には商業や住宅といった「まち」が大部分を占めていますが、北部は「やま」が連なり、山間部に集落が点在しています。この北部地域では人口減少や高齢化が著しく、これに伴う農地や山林の荒廃などの課題を抱えています。一方で、安威川ダムの建設に関連した道路整備や新名神高速道路茨木千提寺 IC の整備により、アクセス性が向上しています。また、近隣では彩都建設事業も進められており、近い将来、産業や商業の集積地としても期待されています。

安威川ダム周辺は、都市に近い立地ながら、溪流、里山、棚田など貴重な自然環境を有しています。このような資源を生かすため、市は府と連携し、ダムにより創出される湖面とあわせた水と緑のオープンスペースを、「自然環境」、「レクリエーション」、「地域振興と地域間交流」が融合した空間として整備するために、安威川ダム周辺整備事業に取り組んでいます。この事業は、茨木市総合計画に位置づけられ、北部地域（通称「いばきた」）における、スポーツ、観光レクリエーションを中心とした地域振興の拠点をめざしています。また、市は事業を通じて、安威川ダムの湖面と周辺の自然豊かな空間を生かし、市民の暮らしの満足度を高め、新たな関係人口の拡大につなげる場所の形成をめざすとともに、市街地といばきたの結節点に位置していることから、安威川ダム周辺を「北部地域におけるハブ拠点」として位置付け、ネットワーク機能の形成やいばきたの魅力向上により、地域活性化の起爆剤的な役割を担うことを期待しています。





# 安威川ダム周辺整備事業を みんなで考え、実践する

## エリアマネジメントと 事前プロモーション

茨木市では事業の目的や内容を具体化するため、官民連携事業として事業候補者を公募型プロポーザル方式により募集し、令和2年(2020年)8月に事業契約等の優先候補者として、大和リース株式会社、Gravity Park Holdings 株式会社及び株式会社E-DESIGN の3社1グループに決定し、設計・施工をしています。また令和4年12月、公募により公園の名称を「ダムパークいばきた」に決定し、令和6年4月に公園施設の一部オープンをめざし整備を進めているところです。

また、大和リースによる公園の指定管理を行うとともに「ダムパークいばきた」の運営には、「エリアマネジメント(特定のエリアで、主に民間が主体となって行うまちづくり)」を取り入れ、ダム周辺で生まれた賑わいを、いばきた全体へ波及・展開させる仕組みづくりをめざしています。そして、公園がオープンする前から、たくさんの方にいばきたやダム、エリアマネジメントについて知っていただき、エリアマネジメントに参加してもらうため、令和3年度から令和5年度の3か年にかけて事前プロモーションとしてワークショップを開催しました。いばきたの課題や現状、魅力を共有しながら、「ダムパークいばきた」の公園づくりについて意見を交換したり、ワークショップに参加した活動者を中心に公園を日常的に活用してもらえるように社会実験的なイベントの開催などを行っています。

## ダムパークいばきたフェスティバル2023 開催報告

オープン後の公園の姿を想像してもらえるよう、工事が始まる前の令和5年5月27日に公園予定地の一部を使ってフェスティバルを開催しました。当日は、将来「ダムパークいばきた」での活動を希望する人たちが事業者が企画したプログラムを実施しました。約4,000人の来場者が訪れ、地元で採れた野菜や地元産の食材を使用した料理やスイーツの販売、いばきたの山から切り出された間伐材を使ったまきわり体験などのいばきたの特徴を活かした企画のほか、安威川ダム等いばきたの魅力スポットを巡るツアーなど、さまざまなプログラムが行われました。



※イメージ

## 官民連携事業の展開

ダムパークいばきたでは、官民が連携した公園の賑わいづくりをめざし、市の公園施設だけでなく、民間事業者による飲食施設等の公園施設の整備を計画しております。特に、ダム湖上空にかかる吊り橋は歩行者専用としては日本最長(全長420m)となり、バンジージャンプ等のアクティビティが体験可能となる予定です。その他、BBQ等の飲食施設や湖面を活用した水上アクティビティなど、にぎわいを創出する事業が順次展開される予定です。またその事業により得た収益の一部はエリアマネジメントの運営経費として使用される予定で、民間施設の賑わいがいばきたの活性化につながっていくことが期待されます。



＜ダムパークいばきた等、ダム周辺整備事業に関する問合せ先＞

茨木市都市整備部北部整備推進課 TEL: 072-620-1609





# 安威川ダムファンづくり会 10年間の活動

安威川ダムと周辺地域の活用・保全について、  
みんなと一緒に考え、取り組んできました。

「安威川ダムファンづくり会」は、ダムやその周辺地域の活用・保全などについて、大阪府、茨木市、地域の方々、企業、教育機関、NPO 団体、専門識者、クリエイターなど、さまざまな分野の人々が意見やアイデアを出し合い、議論を重ねていながら、一緒になって取り組みを推進していくためのプラットフォームです。そのプロセスをオープンにしておくことで、共感へとつながり、集まってこられる方々が「ファン」となって、地域づくりに参加していただくことを目指し活動してきました。

## 地域の人たちと一緒に実践していく。

安威川ダムは、安威川下流に位置する市街地を、大雨・洪水などの水害から守るために作られています。その役割とともに、気軽に楽しめる自然環境を提供したり、地域の活動ステージにするなど、さまざまな可能性があります。安威川ダムファンづくり会では、たくさんの人たちにダムと周辺環境を活用していただくために、地域の人たちと一緒に考え、取り組みを実践してきました。

## 多くの人々が参加できる仕組みをつくる。

安威川ダムファンづくり会の目指す、ダムと周辺地域を愛するファンを増やしていくためには、「眺めて美しい」「訪れて楽しい」「近くに住みたい」「住み続けたい」と思える環境を生み出していくことが大切です。より多くの人たちが関心を持ち、交流を深め、参加できる仕組みを構築し、みんなの思いを実現できる環境づくりを推進してきました。

## 周辺地域の自然環境を守り継ぐ。

ダム建設によって自然環境に影響を与えることがあります。それを回復させ、守り継いでいくことは重要なミッションです。ダム周辺環境の活用と保全、この二軸を同時に進行させ、バランスの良い地域資源のあり方を追求していく必要があるため、ファンづくり会では、多様な分野の指揮者、専門家、クリエイターなどを交えて、総合的なランドデザインに取り組ましました。



さまざまなフィールドでの活動を通じて、「ダム」と「地域」と「人」をつなげていく。



安威川ダムファンづくり会では、多様な協働プロジェクトの推進を始め、地域間のネットワーク構築、プラットフォームの仕組みづくりなど、さまざまな取組みを行ってきました。話題性、参加性、継続性を軸とし、多くの人たちが共感できる活動を展開していくことで「ダム」と「地域」と「人」をつなげてきました。

## 安威川フェスティバル

「次世代へつなぐ出会いの場」をコンセプトに、安威川周辺の自然を守り、創造的な地域づくりを考え、実践する人たちが出会う交流の場を目指して、市街地と山間地の活動が一同に会する場として2014年から2019年まで計6回開催。多数の地元活動団体や飲食店の方々、多くのリピーターに参加いただきました。



## 安威川ニュース発行





## いばらきサイクリングプロジェクト

茨木市は、市街地と山間地が近く、標高510mの竜王山の頂までなだらかな傾斜が続いています。その地形ゆえに育まれてきた「里山」ですが、サイクリストにとっても絶好のロケーションです。いばらきサイクリングプロジェクトは、「市街地から安威川ダムを中継拠点として、北部地域のさまざまな魅力を自転車で楽しむことはできないだろうか」という発想からスタートしました。ダム周辺地域の活用をはじめ、地域の活性化、地元の方々と交流など、茨木にしかないサイクリング文化を生み出すために、「サイクリングロードマップ発行」「オリジナルバイクラック制作」「サイクリングツアー」など、さまざまなチャレンジを行いました。



## 「環境」への取組み

茨木市北部から市街地まで、なだらかに連なる屏風状の山と山間部から市街地を背骨のように流れる安威川。このような地形の特徴によって、多様な生き物たちがバランスを保ちながら生息しています。安威川ダムファンづくり会では、ダム建設で失われる自然を全力で回復させていくとともに、広大で豊かな自然環境や生態系を維持、保全するための活動として、「安威川周辺の環境を考える講座」の開催、生物の多様性と自然学習ガイド「安威川フリーダム」の茨木市内小学生への配布など様々な取組を進めてきました。



## 間伐材活用による森林保全プロジェクト

茨木市北部の里山周辺地域に広がる美しく豊かな森は、近年林業を営む人々の減少によって、間伐をはじめとする「森の手入れ」が行き届いていない状況です。安威川ダムファンづくり会では、2015年に「間伐材活用による森林保全プロジェクト」を発足。茨木の山と森を守るための活動を続けておられる森林ボランティアの方々をサポートするとともに、間伐材を用いたモノづくりを実践し、多くの方々をつないでいくことで、森を守るための持続可能な仕組みをつくるために活動してきました。



## 「食育」への取組み

茨木市は、市街地のすぐ近くに山や農地があり、「食育」を推進していくための環境に恵まれています。週末に里山で畑仕事をしたり、農家の方々とコミュニケーションをとるなど、「食」の現場と出会い、触れ合う機会を増やしていくことによって、自分たちの地域や社会についての関心や理解が深まっています。安威川ダムファンづくり会では、茨木市の食文化をもっと豊かにしていくために、地元で採れた食材を地元で味わう「アウトドアクッキング」など、さまざまな活動を行ってきました。



## ～「安威川ダムファンづくり会の取組み」から「ダムパークいばきたコミュニティの取組み」へ～

平成25年度から令和4年度まで取り組んできた様々な活動を通して、ダムとその周辺地域を愛するファンを増やし、様々な分野の人々が交流を深め、参加できるような仕組みを構築することができました。今後はダムパークいばきたを拠点とした「エリアマネジメント」の取組みの中で、ダムやダム湖を拠点とした地域のプロモーションやネットワークづくりに、これまでファンづくり会が培ってきた活動のノウハウや人々の繋がりを活かしながら、この活動が更なる発展を遂げることが期待されます。この10年間の活動に携わっていただいた団体の一部が、令和6年度からのダムパークいばきたを中心としたエリアマネジメントでの活動を目指してワークショップに参加し、新たに立ち上がる団体「ダムパークいばきたコミュニティ」として安威川ダム周辺の魅力づくりのための活動を進めています。





# 安威川ダムへのアクセス



## ◆ 新名神高速道路からお越しの方

「茨木千提寺インターチェンジ」を下りた後、「大岩交差点」を直進し、府道茨木亀岡線を南へ進み、市道安威川ダム左岸線との交差点（信号はありません）を左折して北へ約600m  
 【茨木千提寺IC～安威川ダム(約5分)】

## ◆ 名神高速道路からお越しの方

「茨木インターチェンジ」を下りた後、国道171号を東へ進み、「西河原西交差点」を左折し、府道茨木亀岡線を北へ進み、市道安威川ダム左岸線との交差点（信号はありません）を右折して北へ約600m  
 【茨木IC～安威川ダム(約15分)】

## ◆ 阪急バスでお越しの方

阪急茨木市駅から阪急バスで「車作」方面行きに乗り、「大門北バス停」で下車、徒歩で約15分  
 【阪急茨木市駅(西口)～(バス約20分)～大門北大門北～(徒歩約15分)～安威川ダム】  
 ※ 便数が少ないため、ご利用の際は時刻表をご確認ください。

# 安威川ダム

Instagram

安威川ダムの現場写真やイベントなどの情報を提供しています

AIGAWADAM

